

『身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力』の育成を 促す教師行動の検証

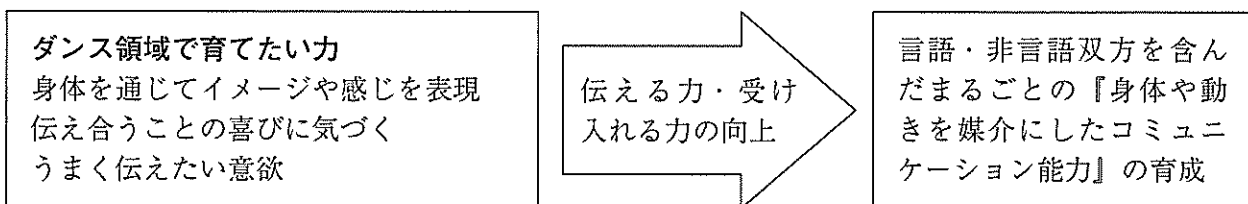
Verification of teacher behavior that encourages the development of 'communication skills based
on body and movement'

保健体育科 君和田 雅子

要 旨

ダンス授業においては、生徒の主体性を育む探究的な学習を生み出すために、「身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力」の育成を促す教師行動の影響が大きい。しかし、この能力の育成を促す教師行動については、まだ十分把握されていない部分も多い。そこで教師行動を焦点化し明らかにすることで、「生徒の主体性を育む探究的な学習」を保証する体育授業のあり方を検証したいと考えた。

本研究では、体育のダンス領域において、とくに生徒の『身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力』の育成にどのような働きかけが望ましいのか、特に教師行動に焦点を置いてあきらかにすることを目的とする。



この「伝える力・受け入れる力」を『身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力』にとらえ、授業では教師はどのように生徒に問いかけ、引き出しているかを検証する。授業の各場面の内、「教師による課題の提示」の場面、「生徒による協働的な課題解決活動」の場面に着目した。「教師による課題の提示」の場面については、教師行動（身振りやしぐさ・動きなどの非言語を含む発話）を記述した結果、動きと言語の連動した行動が観察された。また、「生徒による協働的な課題解決活動」の場面においても、同様にお互いの動きを見つつ動きながら言葉を発し交流をしている様が観察された。この場面において最も学びが深まっている様子を記述し明らかにする。

キーワード：伝える力・受け入れる力 身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力
主体性を生かした探究的な学習 体を使った聴き合い

I はじめに

本校では、中学1年生の男女共修創作ダンス学習を、「ダンス課題解決学習」⁽¹⁾を用いた6時間単元で実施している。実践を重ねるうち、生徒たちが学習の過程で、小グループ（2人組～6人組）で、運動からイメージ（言語）を発想し、言語でイメージしたことを動きに変換する活動を積み重ねていくことによりオリジナルの動きを見つけ出すまでがどのように展開するか、運動学習を伴う話し合い学習「動きながら学ぶ、授業」がどのように展開されているのかを実践実証したいと考えた。「自主創造的な体育学習」であるダンス領域において、その「探究的な学び」のきっかけとなるのは教師の

問いかけによるものが大きいのではないかと考えた。そこで、2014年度の授業において、教師の発話と行動を記録し、毎回の授業を分析し、振り返りを行った。

分析をするうち、1時間の授業における学習の各場面（図1）を通して、どの場面でも「身振りや動き」を交えた発話が大半を占め、また、発話をしていない時に、「身振りや動き」だけで生徒とやりとりをしている場面が全体に見られた。

この、「身振りや動きを伴った問いかけ」こそ、教師と生徒、また、生徒同士で動きながら学ぶ授業展開を支える大きな要素ではないかと考える。

そこで、2016年度の授業では、身振りや動きを伴った問いかけを意図的に心がけ、発話、教師行動を記録した。学習の各場面のうち、図1「課題の理解」（教師による課題提示）の場面、「イメージと動きの共有・グループ活動」（生徒による協働的な課題解決活動）の場面に着目し、発話分析、教師行動（身振りやしぐさ・動きなどの非言語）の映像分析、生徒たちのエピソード記述によって『身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力』の育成に寄与する働きかけの実際を探ることを目的とした。

Ⅱ 研究方法

1 授業の実践

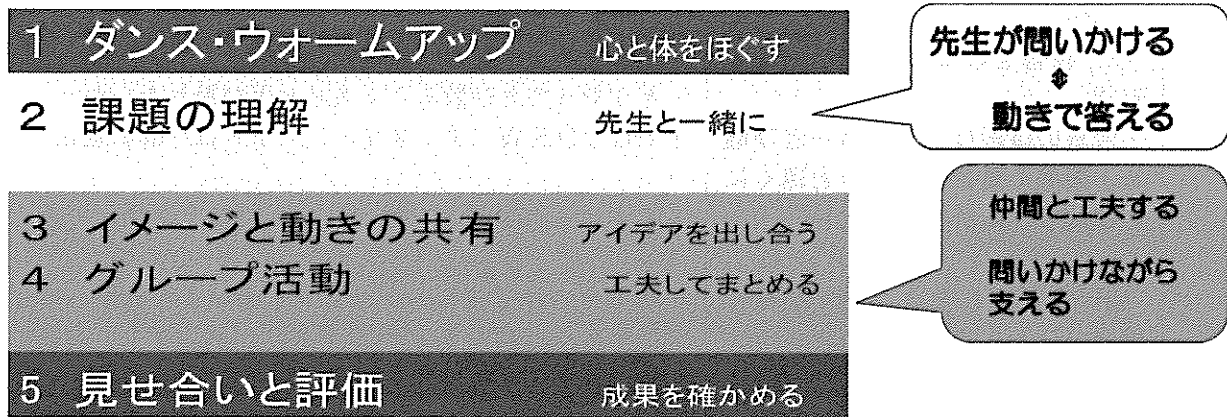
伝える力・受け止める力を向上し、「身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力」の育成を意図した授業づくりを検討し、7時間×3クラスの授業実践を行った。

表1 単元計画

第1時	ダンス単元オリエンテーション
第2時	リズムに乗って踊ってみよう「8844221111」 DKWは「ダイナミック」
第3時	ものを手がかりに「ひと流れの動き」の体験-しんぶんし DKWは「ひと流れ」
第4時	対極の動きの連続を手がかりに①「走る - 止まる」 DKWは「メリハリ」
第5時	群（集団）の動きを手がかりに「集まる - とび散る」 DKWは「群の変化」みんな でやるとおもしろい
第6時	身近な生活や日常動作を手がかりに スポーツいろいろ① DKWは「デッサン・デフォルメ」
第7時	見せ合う楽しみ スポーツいろいろ② ミニ発表会

前述のダンス課題学習を用いた6時間単元である（表1）。授業は現学習指導要領で示されている「題材」を1時間の授業で解決する問いの形にして「今日の課題」とし、創る・踊る・観るために身に付けるべき技能の骨格をDKW（ダンスキーワード）として示しながら進めた。

図1 「1時間の授業における5つの学習場面」



分析は1時間の授業の5つの学習場面（図1）の中から2「課題の理解」場面、3、4「イメージと動きの共有・グループ活動」場面に焦点を絞った。今回はオリエンテーション時に、この授業でつきたい力として、「体を使って伝える力・受け止める力をつけよう」ということで、授業の約束として、「口じゃなくて体でおしゃべりしよう」「先生や友達の動きをよく見よう」と2点の約束を伝えた。

また、集合や準備などのマネジメント場面では、「大声や笛の指示をできるだけ使わないから、先生の身振りをよく見てね」と伝え、授業全体を通じて「身体や動きを媒介としたコミュニケーション能力」を高められるよう図った。

学習指導案

題材「集まるーとび散る」

対象：1年菊組（男子9名女子26名）・梅竹組（男子13名女子36名）・蘭組（男子9名女子26名）

◆題材のねらい

- ① ダイナミックに空間を変化させる
- ② みんなで動くおもしろさに気づく

◆指導案（実践で有効だった指導言語を中心に）

時間	学 習 活 動	指導の要点と言葉かけ
5	1 ダンスウォームアップ（5分） (1) ぐるぐるジャンプ	・空間を広く使ってあっちこっち動こう ・最終的に6人組になって集合する

15	2 課題の理解（課題を動く） （10分） （1）板書をみながらひと流れを確認 ・今日の課題は「集まるーとび散る、素早く集まるーもっと遠くにとび散るー転がるーぴた！」 （2）ひと流れをその場で小さく確認（ひとりで） （3）グループで課題を動く （4）先生のイメージ例で動く 「火山の爆発」「舞い上がるしんぶんし」 （5）自分の思いついたイメージで動く	・どんなイメージがわくかな？ ・どうやってとび散る？1人じゃとび散れないね ・今日のDKW（ダンスキーワード）は「群の変化」 ・まずは「とび散るー転がるー止まる」を動いてみよう ・助走をつけて遠くへジャンプ！勢いよく転がってピタ！・もっと高くダイナミックにジャンプ！・最後はしっかりピタ。視線もピタ！ ・ギュッと集まって、パッととび散る、サーッと集まってさらに遠くにダダダ、バーンととび散って、ゴロゴロ…ピタ・集まるのは素早く！2回目はもっと速く、遠くに！			
20	3 イメージと動きの共有 4 グループ活動 1つ題名つけて作品作り 5 リハーサル 6 見せ合い	質感の違うものをふたつ（時間があれば。なければ火山） ・思いつかなければさっきやった「火山」か「しんぶんし」でね ・グループでイメージをできるだけ多く書きだそう。 ・動きになりそうなものに○をつけて グループになってからのことばかけいろいろ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 《グループ活動》 動きながら考えよう 絞りきれなかったら2つやってもいいよ </td><td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 《極限化》 集まった時まだすき間があるよ 壁にぶつかるくらい広がってすごいね 止まり方は全員一緒にいいのかな？ </td><td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> 《構成》 全員が同じ位置に集まらなくてもいいよ 始まりと終わりはどんな形？ 一番の見せ場はどこ？ </td></tr> </table> 最初から通してみよう。始まり方と終わり方を考えて。2つに分けて発表しよう。大きな拍手で！ 同じ課題から、いろんなイメージが広がって、素敵な作品ができたね！	《グループ活動》 動きながら考えよう 絞りきれなかったら2つやってもいいよ	《極限化》 集まった時まだすき間があるよ 壁にぶつかるくらい広がってすごいね 止まり方は全員一緒にいいのかな？	《構成》 全員が同じ位置に集まらなくてもいいよ 始まりと終わりはどんな形？ 一番の見せ場はどこ？
《グループ活動》 動きながら考えよう 絞りきれなかったら2つやってもいいよ	《極限化》 集まった時まだすき間があるよ 壁にぶつかるくらい広がってすごいね 止まり方は全員一緒にいいのかな？	《構成》 全員が同じ位置に集まらなくてもいいよ 始まりと終わりはどんな形？ 一番の見せ場はどこ？			

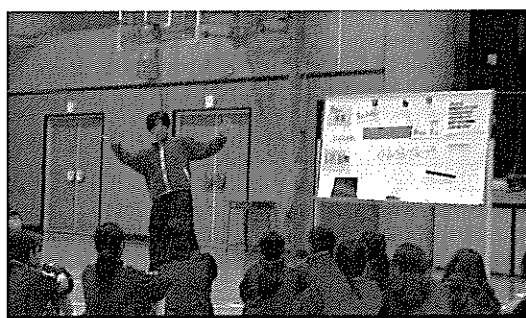
2 授業の分析「2016年度”集まるーとび散る” 2 「課題の理解場面」の映像と逐語記録、生徒の反応を授業のタイムラインでふり返る

①ー1 課題の理解場面「導入の部分」(白板の前に集まって。動き出す前に)

分	秒	教師行動 表現を引き出す行動は太字 () 内はしぐさや身振り、動き	生徒の発話・行動
13		はい、今日の課題じゃん！(フラッシュカードを示す)	
	20秒	見える？(示す) ピンポン。集まる・飛び散る。 ぎゅーっと集まったり、パッと飛び散る。(上半身でぎゅーと・ぱっと動きながら) ぎゅーっといってもぎゅーとじゃないけどさ、	「集まるーとび散る」口々に読む 前列でぱっと両腕を開く生徒
	30秒	集まって、パッと飛び散ったよね？(上半身でぎゅーと・ぱっと動きながら) 飛び散ったよね？ はい、今のを 今日はダンスにしてみます。 はい、んで、	ずっと教師を注目
	40秒	ぎゅーっと集まったり、ぎゅーっと集まってぱーっと飛び散る感じ (その場でぎゅーと・ぱっと、大の字ジャンプしながら) 何があるかな？(見回して)	
	50秒	なにがある？ あー花火。ピンポン、ピンポンはい。 はい、他には？ らんーと固まってぱーっと飛び散るもの。(身振りをしながら)	「花火」「花火」あちこちで 「ポップコーン」
14	00秒	いいじゃん、いいじゃん。他に？ 火山、あー火山もいいですね。 最近話題の阿蘇山ね。(その場で噴火してる様子を動く「あそきーん」言いながら)	「火山」 動きを見て笑う。楽しげ
	10秒	他に、ぎゅーっと集まってぱーっと飛び散るもの。(見回して聴く)	後ろのほうから「ストレス」うんうんとあちこちでうなづく
		あ、ストレス？ いーね ストレス。(頭をかきむしって爆発の身振りしながら)	笑いながら
	20秒	保健でやったばかりなんですか？ ぼいすね。はい、他に？ お母さんの怒り。 お母さんの怒り、いきなり始まるからね。 うん、あれ溜めてるんでしょねきつとね。(グーッと我慢する身振り)	「はい」口々に 「ためてる」「たまってる」 笑う
	30秒	とか、あと勢いよく水が噴き出す(水が噴き出す様子) 噴水なんてのもあるよね。(噴水の吹き出す形をつくる)	
		うん。 それから、しゃしゃしゃしゃしゃーぽん、ぽわ。(瓶から泡が吹き出す様子)	「ビール」「ラムネ」「しゅわしゅわ」
	40秒	ビール？ ビールみたいなもの。 花火もそう。(火花の吹き出す様子)	
	50秒	おーシャンパンとかね、シャンパンとか。(身振り) あと、コーラとかね。(吹き出す様子) うん。はい他にも色々あります。 ぎゅーぽーんってやる豆鉄砲であったりとか。(豆鉄砲を撃つ様子)	「ああ！」
15	00秒	水鉄砲びゅーとかね。(水が勢いよく出る様子) まあ、あんまり言っちゃうとね、 思いつかなくなっちゃうんですけど、 みんなの中でぎゅーっと集まってぱーっと飛び散るもの(動いて見せながら) 今日はやってみますので、ちょっと頭に入れておいてください。	
	10秒	じゃあその場でちょっとね、 その場で今日のひと流れをやってみます。	
		今日は、ぎゅーぽん(言いながら、一人でひと流れを動く)	じっと見て小さく動いている生徒もいる
	20秒	すばやく集まって、(足踏みしながら小さくなって) もっと速くへばん！(翻ってジャンプ)	
		ピタッね。(ピタッとポーズで止まる)	

①-2 課題の理解場面「先生のイメージで課題を動く部分」

分 秒	教師行動 表現を引き出す行動は太字 ①内はしぐさや身振り、動き	生徒の発話・行動
20	じゃあ、今度は	
50秒	私のイメージをちょっと頭に思い浮かべてください。(ゆっくり、区切って) さっきいいのが出たね、火山の大噴火。	一回目のひと流れのあとで床に転がっている 「あー！」
	火山の大噴火行くよ！	匍匐前進したり、転がりながら集まってくる
	はい、	ゴロゴロ転がって密集しだす
21 00秒	ドロドロドロドロ、マグマがドロドロドロドロ。 ドロドロドロドロ集まって、はい、ダダダダ。(太鼓少しずつ強く あしぶり)	「ドロドロドロ」声が出だす 男子だんだん立ち上がる
	立ち上がって(太鼓だんだん強く 足踏み)	立ち上がり出す
	立ち上がって(太鼓だんだん強く 足踏み)	足踏み
	立ち上がって(太鼓だんだん強く 足踏み)	「ポオー」声が出だす
10秒	ふつふつ立ち上がって～ 立ち上がる立ち上がる	上下に動きながら足踏み 声どんどん大きくなる
	お～いいいいね 足が～いいね～	足踏みどんどん強く
20秒	ぼ～～～～。 はい、じゃあ爆発するよ！ ドドドドドン(太鼓) バーンッ！！ お～だんだん	「ポオー」大声で 大声で「バーン！」翻ってジャンプ 床に転がる ドロドロと動いている
30秒	すごいマグマが溢れてかっこいい そこからまたドロドロドロドロ～ 集まってくるよ～ もっと強い強い力が～	這いながら集まってくる 立ち上がって足踏み
40秒	はい、ワラワラワラ 盛り上がってきた盛り上がってきた、 盛り上がってきて～	「ポオー！ポオー！」大声で叫びながら足踏み 手を振り回したり回ったり
	はい、もっと速く到大噴火！	「バーン！」声を出しながら翻ってとび散る
50秒	ドドドドドン(太鼓) はい、転がる！ 最後は冷えて固まって 色んな形の溶岩が固まって ドドン(太鼓)	転がって床に低くポーズ 形を変えてみる
22 00秒	冷えて固まってるよ。 なんか楽してる溶岩がいるね。 お、なんかお地蔵さんみたいなのがいるね。	笑いながら腰をあげたり、そったり
	はい、オッケー。ドドン(太鼓)	
10秒	いいですね～、足バタバタさせたりとか、お～とかいってるのすごい素敵。	



写真①-1 課題の理解場面「導入の部分」(白板の前に集まって。動き出す前に。)

単元を通して、できるだけ短い言葉、身振りや動き、しぐさを交えて生徒にインストラクションすることを心がけた。この題材はグループで集まったり飛び散ったりする「ダイナミックな空間の変化」の感覚を生徒たちが共有し、イメージを広げてグループオリジナル

のひと流れをみつける活動である。

この導入部分では、「凝縮－拡散」から広がる様々なイメージを、体で表現するにはどうしたらいいんだろう？からはじまり、「バン！と爆発」「水鉄砲ビュー！」など、イメージしたものの特徴を強調するオノマトペを織り交ぜて身振りや動きを示し、生徒の「気づき」を拾い上げていく。生徒には動き出す前の3分間でこのように動きを交えて「よく見て」もらい、その後の活動につなげた。

写真①ー 2 課題の理解場面「先生のイメージで課題を動く部分」



6人組グループで「集まるーとび散る」のひと流れの動きを一度体験したあと、教師のイメージ「火山の大噴火」をかけて動いてみる場面的一部分である。教師行動のタイムラインで太字の記述部分は、イメージを想起させ、表現を引き出すのに有効と思われる指導言語である。動きや身振りに加えて声を出す、足音を立てる、オノマトペを使って、生徒の動きに結ぶ問いかけを試みた。また、「飛び散る」前の「集まる」ところで気持ちが高揚するように、たたみかけるように言葉をかけ続けたり、飛び散って最後のポーズでは逆

に間合いをはかったり、生徒がスムーズに気持ちが入るように工夫した。言語・非言語両方を含む教師の問いと、生徒の動きとの往還で課題を理解し、グループ活動に入った際に今度は生徒同士ですぐに動きやイメージを体で聴き合えるように、後半の学習の基盤づくりを試みた。

②3, 4「イメージと動きの共有・グループ活動」の場面でのグループへの問いかけ（動きや身振りを含んだ）にこたえる、また聴き合う生徒たちの姿をエピソード記述し、考察する。

3, 4「イメージと動きの共有・グループ活動」場面である。集まるーとび散るを題材に、グループ毎にイメージしてオリジナルのひと流れをつくってみる活動で、教師行動を記録したデジタルビデオカメラ、全体を撮影したビデオカメラ、教師の発話記録により生徒たちの聴き合う活動と、私（教師）が各グループを回って生徒たちとやりとりをする様子を記録した。ここでは、前半の教師の問いかけ（言語・非言語）に生徒が動きで答える「課題の理解場面」がどのようにグループ活動で生きているかに着目した。4人から6人というひとまとまりのグループの中で、今までの授業で積み重ねてきた、2, 3人小グループでおこなってきたイメージと動きの共有（体で聴き合う活動）および小作品としてオリジナルのひと流れを作りあげる活動が、人数が増えてグループの活動でどのように機能するか。お互いに体全体で聴き合い、相手の様子を見つめてよい動きを活かし合う活動がスムーズに展開できればよいが、出し合えるような場作り、また、なかなかイメージしたり動きを思いついたりができにくい生徒をグループとしてどう支えていくか、個々のグループを教師はどのような視点で見ているか、グループ毎にエピソード記述をおこない、考察した。（文中生徒は仮名）



『事例1』[なかなか自分から動き出せない、輪に入れない生徒を受け止めながら：男女混合のグループ]

ブーメランをイメージした6人組は、ブーメランの回りながらとび散る動きをそれぞれが様々に動きながら、考えていた。しかしタクヤはひとり棒立ちでなかなか動き出せない。前半の「先生とイメージで課題を動く」場面では、一緒に動いていたが、グループ活動になったと

たん、動きが止まっていた。他のメンバーは順調にみつけている。リーダー格のヒロミは「肘を起点にくるっと体を翻す」動きをみつめてやってみた。カズキはその動きをみて、自分のイメージした「回るととび散る」動きをやりだした。他3人の女子も近づいてきて動きをまねしだした。カズキが「ねえ、

やろうよ」とタクヤのそばにいて声を掛けた。タクヤもようやく「うん」とうなずき、6人で伝え合いが始まった。ヒロミの動きにカズキの回ってとび散る動きを組み合わせ、6人でせーの、と、かけ声を掛けて動き、ひと流れができていった。タクヤはカズキの動きをみながら動き始めていた。最初は小さな動きだったが、徐々にタイミングを合わせて大きく動けるようになってきた。

〔考察〕タクヤ以外の5人はすでにペアや3人組での「体での聴き合い」でお互いの動きをまねしたり、つなげたり、よりよい動きを選んだりすることがよい動きの発見につながることに気づいている。特にカズキは男女分け隔てなくどんどん一緒に動き、表現することが好きな男子生徒である。タクヤはふだんから言葉数が少なく、この活動にどう加わっていけばいいのか、じっとグループの様子を見ていた。自分から動きを提示できなくとも、誰かの提示した動きを真似て一緒に動くことは小作品づくりの大切な要素である。タクヤが立ち止まって戸惑っている様子をカズキは見ている、一緒に動こうと声掛けをし、促した。この一言でタクヤも活動を始めることができた。カズキはふだんから物言いも優しく、おとなしくなかなか入りづらいタクヤとほかの女子たちとを柔らかくつなぐ役割をしている。タクヤは、安心して活動に加わることができ、仲間の動きをよく見て一緒に動くことを何度も繰り返すうちに、「みんなでタイミングを合わせて動く面白さ」に気づくことができた。



『事例2』〔発信する気持ちを肯定的に受け入れることでどんどん作品作りが進んだ女子4人のグループ〕



「ふなっしー」をイメージした4人組は、グループ活動になるとすぐ立ち上がり、特徴ある動きを見つけての伝え合いから始めていた。マリエがぴょんぴょんとその場で跳ね始めるとすぐにジュンコとナミ、アキが呼応して動きだす。ジュンコが頭の上で手をひらひらさせてみせると、みんなもその動きに合わせてひらひら動かしながらその場で回り始める。マリエが「ふなっしージャンプ」を跳んだのを見て、次々にジャンプしだした。ホワイトボードで動きのひと流れを確認して、「ぴょんぴょん跳ねて集まるー「ふなっしージャンプ」でとび散るー一足踏みして集まるーもっと速くに声を出してとび散るー転がって最後どうなる？」までの流れをBGMに4人で合わせて動いてみた。教師が「最後はどうなるの？」と聴くと、「もう一度集まってくる」と、ナミがぴょんぴょん跳ね出した。アキも「あ、逆再生で集まってくる？」と、跳ね出した。教師も真似て一緒に動きながら「最後ふなっしーのポーズ？」と、彼女たちを真似てポーズを見せた。ジュンコ、マリエが「ああ、それやってみよう！」と早速試し出した。10分ほどのグループでの創作活動の間ほとんど止まらずに声を出して体で聴き合う活動を続けていた。



〔考察〕他のグループに1ないし2名の男子生徒が入る中、ここだけ男女比の関係でたまたま女子だけの班となった。マリエは動きたいという欲求や、イメージをたくさん内在しているのだが、グループに男子が入ったり、また、あまり普段付き合いのないメンバーだと、意識してしまい、なかなか自

分から提案できない生徒である。今回は女子だけであり、ふだんから彼女を肯定的にとらえるメンバーがたまたま集まったので、マリエはグループ活動に入る前から随分と高揚して自分から動き出していた。ジュンコはそんなマリエにさりげなく気遣い、マリエの出した動きを認めて受け入れようという姿勢が見られた。アキ、ナミもマリエの見つけた動きをすぐに一緒に動き、マリエの積極的な姿勢を支えて自分たちの動きも提案するという、よい相乗効果があらわれていた。結果的に、「こうしよう」とことばを発さなくとも誰かが動きで提案し、それをみんなでやってみる、あるいはもっと大きな動きでやってみて、最後に選び取ってつなげる「学び合う」姿勢がごく自然にできていた。関わりを結ぶのがあまり得意でない生徒でも、間に聴き合う仲間がはいること、みつけた動きを共有し、時折声を立てて笑いながら、楽しみながら取り組んでいた。お互いを認め合い、自分からも発信する「伝える・受け入れる」ことで安心して作品作りに取り組めたグループであった。



『事例3』[動き出したいが自信がない、背中を押してほしいグループ]

「魚の群れ」のイメージでつくりはじめた6人組は、立ち上がりは早かったが、なかなか動き出せない。エリ、マリナは両手を合わせて魚の動きをやってみるが、他の4人は周囲のグループがどんどん動き出すのを眺めている。そのうちに、隣のグループがどんどんまとまってくるのをみて、アヤメがそわそわとして「ねえどうしよう、どうしよう」と言い出した。アヤメは自分のなかでこうしたいというイメージがあっても、いざ動き出すには自信がなかったり、すぐ「わかんない」と言ってしまう生徒である。エリは、そこでさっきの魚の動きを少し大きめに動き出し、マリナも再び呼応して動きはじめると、だんだん全員が手の動きを真似しだした。そこに教師が近づき、「魚？こんな風に？」と、エリたちを真似て動くと、急に皆一斉に動き出した。「いろんなとこ泳ぐのね？」と言いながらひとしきり出会ったり分かれたりして動くと、すり抜けながらの動きそのものが楽しくなり、声を上げて走り回りだした。アヤメも漸く安心したかのように動いている。教師が「いろんなとこ泳ぐとき、離れたりくっついたりすると、魚が見える、かもね」というと、エリ、マリナが「あー！」と気づき、アヤメが「どうする？集まってみる？」と声をかけた。そこで、「誰かが合図すると、いいかもしれないね」と、アドバイスして離れた。そこからは自分たちで「魚の群れが集まるとび散る」場面を工夫し始め、活動が一気に活性化した。くっついたり離れたりしながら魚になって動くうちに、アヤメが「バーン！」と、とび散る合図を出す役目を「誰がやる？じゃ、私やるよ」と言い出し、作品のはこびが見えてきた。

〔考察〕このグループでは、エリとマリナがイメージにふさわしい動きをいち早く見つけ出していたが、他の4人がなかなか動き出すには至らなかった。動き出せない仲間をどう促すか、エリ、マリナも言いあぐねていた。しかし、周囲のグループの活動をみるうちに「やらなくちゃ」と、アヤメが焦りだし、そこで4人が初めてエリ、マリナの動きに呼応し、小さく動き出したところに教師が入った。すぐに活動を始められればいいのだが、このように停滞した場合、ちょっとしたきっかけ（今回は教師と一緒に動いた）で、ぼん、と活動が加速する瞬間があるのだとのちの映像をみて理解した。教師と一緒に動く（見つけた動きを肯定する）だけでも生徒たちにとっては、やっていることの方角性を見いだせたのかもしれない。グループ活動後半の小作品をまとめる場面では、最初はなかなか意見が出せずにいたアヤメが合図を出したり、他の3人も泳ぎながらジャンプしたりと自分の見つけた動き

を出せるようになった。グループ活動において、みんながみんな良いアイデアをすぐに思いつくわけではないし、ぱっと動き出しができるわけでもない。このグループは活動のきっかけをつかむまではゆっくりだったが、その分周囲の様子をよくみていたし、教師の働きかけも起爆剤となった。結果、自分たちのやっていることに自信が持てる、楽しめる、好きになることができ、一人の思いついたことを肯定的にみんなで体を媒介にして聴き合い、みんなで動いてみて次々に新しい発見をしていくという、グループ活動が熟していく数分間の学び合いが見て取れた。

Ⅲ まとめと今後の課題

○生徒の学習カードから

- ・皆で協力することによってたくさんのアイデアが出てきてとても楽しかった。
- ・ダイナミックだったり、いきなり止まったり、とび散ったりすることでとても素晴らしいダンスになることを（ほかの人たちのダンスを見て）知れてとても面白かった。今回の授業で学んだことをこれからの体育などで生かしていきたい。
- ・相手にどうやったらうまく伝わるかどうかということもよく考えるようになった
- ・「群」を使って集まるーとび散るという動きをみんなでやることで楽しさも実感することができた。学んだことを使いながらみんなと案を出し合って一つのダンスを自分たちだけで「つくる」という新しい力も身に付けることができた。
- ・みんなとアイデアを出し合いながら作るのは楽しかった。また、他の人（人たち）の作品を見ても、たくさん発見があって、有意義な時間だった。
- ・ダンスの授業を通じて大切だと思ったことは、テーマをしっかりと決めること、大きく思い切って動くこと、先生や友達の動きをよく見ること、考えや意見を友達と共有すること・・・などたくさんあった。これらはダンス以外の体育の授業でも、ぜひ、生かしたいと思う。

太字は今回の授業づくりで教師が意図した要素に関しての記述である。



「協力すること」、「考えや意見を共有すること」、「他者の動きをよく見ること」、「どうやったらうまく伝わるかを考えること」などは大切、であり、また、「アイデアを出し合いながらつくるのは楽しい」、などの記述が見られた。

映像、発話から振り返ると、単元の早い段階（2人・3人の小グループ活動）では体での聴き合いができていた生徒と、なかなか理解できていない生徒との混在がみられた。

中学生は特に発達の違いが大きい。男女差もあり、個別の差もある。特に、男女共修の場合、男子にも女子にもお互いを意識してしまい「ぱっと見る／すぐ動く」までがなかなか時間がかかることがあった。そこで理解がゆっくりに生徒にも、浸透するように、重ねて「どんな時でも友達や先生の動きをよく見る」ことを呼びかけ、課題の理解の場面で身振りや動きを交えながら表現に結ぶ問いかけを重ねた。これらの問いかけを繰り返し行うことによって後半のグループ活動での生徒同士の関わり方がどう変容するか単純に数量化しての分析は難しい。そこで、授業を振り返り、グループ活動場面では、3つの事例をピックアップした。事例1では、グループの中で、「聴き合う活動」が活かしている生徒がそうでない生徒と結びつくことによって、仲間が今どんなことがわからないのか、何に戸惑っているのかを聴き合い、解決していく姿が見られた。「友だちの動きをよく見よう」「一緒にやってみよう」といった前半部分での問いかけが生きていた。事例2では、体での聴き合いがスムーズに行われ、

「伝える・受け入れる」活発なやりとりで学び合いの深まりがみてとれた。事例3では、アイデアはあるもののなかなか動き出せないグループがあったが、教師と一緒に動き、聴き合う活動に加わることで気持ちがほぐれ、「伝える・受け入れる」活動が活性化している様が観察された。これらの事例から、授業の前半での教師行動が、後半の生徒のグループ活動において「体での聴き合い」で「伝える・受け入れる」活動を活性化し、学び合うきっかけとなっていることが推察される。元々生徒が持っている力なのか、この授業で獲得した力なのか、そこはまだ明らかにはできないが、授業の前半場面で体験したことがグループ活動で活用されている様子は随所で観察できた。これまでも、「口じゃなくて体でおしゃべりしよう」と単元の目標に掲げてきたが、今回、より体を使った問いかけを意識してみたところ、生徒を見つめる眼が変化したと感じている。授業の導入から体での問いかけを重ねることで、丁寧にほぐし、見る眼をもち、グループで互いに聴き合う活動ができるように下支えすることを意識した。グループ活動での、何もなかったところから作品ができていく上での生徒たちの聴き合う様子は、まさに身体を媒介としたコミュニケーションそのものであった。

また、生徒の記述にもあるが、「ダンス以外での体育の授業にも生かしたい。」

よく見ること、体で聴き合うこと、他領域にこの学び合いをどう応用していけるか、引き続き今後の課題となる。

本研究は平成28年度科学研究費奨励研究（課題番号16H00135）の助成を受けて行ったものである。

- ・研究協力：東海大学 中村なおみ・全国ダンス・表現運動授業研究会
- ・収録分析協力：山田大貴・岡千春・東海大学体育学部 中村ゼミ

参考文献

- 注1) 中村 なおみ・宮本 乙女(1989) 男女共修のダンス学習－中学生を対象に－日本女子体育連盟紀要 Vol. 1989 No. 89 p.27
松本千代栄(1992) 松本千代栄編、ダンスの教育学 3 創作ダンスの基本的段階、徳間書店
高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆司・芳本真(1994) 体育授業における教師行動に関する研究－教師行動の構造と児童の授業評価との関係－体育学研究35 pp.193-208.
鯨岡峻(2005) エピソード記述入門－実践と質的研究のために－東京大学出版会
岡野昇(2009) 関わりを基軸とした体育授業の研究動向 三重大学教育学部研究紀要 第60巻 教育科学(2009) pp.197-205
全国ダンス・表現運動授業研究会編(2011) 明日からトライ！ダンスの授業 大修館書店
鯨岡峻(2012) エピソード記述を読む 東京大学出版会
岡野昇・佐藤学編著(2015) 体育における「学びの共同体」の実践と研究 大修館書店